

質の高い幼児教育・保育とは！？

—夏の如く、百草の個性を伸ばす—

《子どもにとっての安全基地、それは場所ではなく人！》

園長 山崎立哉

0,1,2歳児の子ども達は、入園、進級から4ヶ月が経ち、こども園生活にすっかり慣れてきました。0歳児は、玩具で遊んだり、滑り台を滑ったり、絵本を見たりと活発に遊ぶ姿が見られます。1歳児は、ままごと、レゴブロックで遊び、わらべうたで楽しむ姿が見られます。また、食事の時に自分から席にすわったり、コップを持って来たりとお手伝いする姿も見られます。2歳児は、自分でできることが増えて、食事も1人で食べることが出来るようになりました。また、言葉で伝える姿も出てきて、わらべうたを楽しむ姿が増え、時には「してして！」とせがむ姿も見られます。

また、子ども達は園でしていることを、お家に帰ってから真似をするようになり、保護者の方より「自宅でも食事が終わった後、食器を重ねてご馳走様をするようになった。」とか「外へ出かける時、靴下を持ってきたり、帽子も持ってくるようになりました。」という報告を聞いています。

このように子ども達は、よく遊ぶようになり、また、お手伝いをしたり、自分の出来ることがたくさん増えてきました。これは、子ども達がそれぞれに育児を担当する保育者に慣れ、安心してこども園で過ごすことが出来るようになった証拠です。いろんな遊びを積極的に行い、お友達と一緒に遊ぶ姿が出来ているということは、その子にとって「安全基地」が出来たということです。

安全基地とは、その安全基地があるからこそ子ども達は集団生活や社交的な場所に勇気を出して踏み出していける、様々なことに挑戦していけるような場所のことです。もし「子どもにとっての安全基地」がなければ子どもは新たなことに踏み出す勇気が持ちにくくなります。基地というのは、言い方を変えれば「帰る場所」「戻る場所」、そして安全基地とは子どもにとって「場所」ではなく「人」であるということです。

子ども達が、勇気を出していろんなことに挑戦する、できるということは、裏を返せば、自分を励ましてくれる人、失敗やトラブルがあったら戻って慰めてくれる人がいるということです。子どもにとっての安全基地、それは場所ではなくその子を見守る人がいるということです。